



食品は「てまえどり」で

農水省など ロス削減へ呼びかけ

食品ロスを減らすため、農林水産省などは商品棚の手前に置かれた消費期限の迫った食品を選ぶよう消費者に呼びかけている。「てまえどりと名付けた運動で、期限切れで捨てられる食品を少なくするの狙いだ。

農水省が6月から行っており、コンビニエンスストア4社が参加している。

消費期限が近い食品は棚の手前に置かれるが、奥にある食品を選んで買う客が多いという。このため、「すぐにたべるなら、手前をえらぶ。『てまえどり』にご協力ください」と書かれた表示を、おにぎりや弁当、サンドイッチの棚に貼った。

農水省などによると、2018年度の食品ロスの推計値は計600万トンだった。飲食店などから出る分が324万トンで、このうちコンビニやスーパーなどからは66万トン。一方、家庭から出る分は276万トンだった。同省は飲食店などから出る食品ロスを30年度までに00年度の約半分に減らすことを目標にしている。

同省の担当者は「店側の努力だけでは減らせない。(1)にも協力をお願いしたい」と話す。

(2021年7月6日 読売新聞夕刊より)

1 記事で紹介されている食品ロスを減らすための運動をなんと言いますか。5文字で書きましょう。

--	--	--	--	--

2 (1)に入る言葉として、適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 農家 ② 消費者 ③ ごみ収集業者 ④ コンビニエンスストア

3 なぜ、記事のような運動が必要なのでしょう。最も適切な理由を選び、番号で答えましょう。

- ① コンビニで弁当やサンドイッチを買う人を増やしたいから。
 ② 棚の奥にある食品は、取りづらいのでなかなか売れなくて困っているから。
 ③ 棚の手前にある消費期限が近い食品は値段が安く、人気があるから。
 ④ 早く売らないと捨てることになる、手前の食品を先に買ってほしいから。